

週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月1日(火)

《幸いな人 ～分かち合い、慰め合う喜び～》

今日のマタイの福音（マタイ5・1-12a）では、イエス様が幸いである条件を話されましたね。いくつか話されましたか。

『心の貧しい人』、『悲しむ人』、『柔和な人』、『義に飢え渴く人』、『憐れみ深い人』、『心の清い人』、『平和を実現する人』、『義のために迫害される人』

8つですね。その8つの中に、ご自分のことだと思われることはいくつありますか。

一番大きいポイントは、『心の貧しい人』です。ルカによる福音（ルカ6・20）には、「貧しい人々は、幸いである」と書かれています。しかしマタイは、神学的な意味を入れて「心の貧しい人々は、幸いである」と書いています。

今日の話の8つの中で、自分に該当する話がいくつあるか黙想できれば、頑張ることができると思います。

あるお母さんと子どもたちだけの家庭がありました。お父さんはいなくて、とても貧しい家庭でした。しかし、子どもたちはいつも明るく、暗いところがありませんでした。お母さんは、バスに乗る時には「今日はこのバスが私たちの車だよ。神様が許してくださった車だよ。」と言い、空や山や野原を見ると「これも全て神様がくださった私たちのものだよ。」と言いました。そしていつも口癖のように、「考えてみると、私たちは本当に豊かな金持ちだね。」と言っていました。そのようなお母さんのもとで育った子どもたちは、どんな困難、どんな難しさにぶつかっても、明るく希望を持って乗り越えられると思います。

物質が全てで、一番価値のあるものと思われている社会で、そのようなお母さんの生き方は愚かな生き方かもしれません。競争力もないし、子どもたちをみじめにさせるだけかもしれません。しかし、このような家庭で育った子どもたちには、問題はありません。なぜならば、物質的には貧乏であっても、彼女はいつも信仰に希望を置き、^{まこと}真の生きる意味、生きる価値について子ども達に教えているからです。

物質に全ての価値を置いている人は、いつも自分が持っているものを失ってしまうのではないかとこの緊張感を持っています。相手を正しい目で見られず、損得を考えて、利害関係で人との関係を結びます。だから、関わり^{まこと}の真の喜びも分かりません。死ぬまでお金に追いかけられる気持ちで素晴らしい人生を無駄にしてしまうのです。しかし、先ほど話したような家庭で育ってきた人は、お腹がすいても分かち合うこと^{まこと}に喜びを感じる体験^{まこと}ができています。何が^{まこと}真の喜びか、^{まこと}真の分かち合いかよく分かっています。

エディ・フロムというカトリックの有名な心理学者がいます。彼は、“人間の生き方は、大きく二つに分けられる”と言っています。

一つは、この世の社会的な価値観に自分の価値観を合わせる『所有中心的な生き方』です。そのような生き方をする人々な、いつも何かを追いかけています。お金でも知織でも、自分の物にして満足しようとしします。しかし、そのような人々は必ず崩れます。必ず寂しくなります。

そしてもう一つは、『存在中心的な生き方』です。これは、神様がくださった自分の命自体を大切に
する生き方です。『存在中心的な生き方』をする人々は、分かち合いながら、人々を慰めながら、生かしながら、やりがいを感じながら、その中で喜びを求めます。先ほど紹介したお母さんの生き方は、この『存在中心的な生き方』です。

結局、信仰を持っている私たちが求めなければならないのは、この『存在中心的な生き方』です。『所有中心的な生き方』では、絶対に幸せにはなれません。『存在中心的な生き方』ならば、どんな事があっても最後には必ず幸せになれます。それを意識しながら生きましょう。そうすれば、少し物が足りなくて寂しい気がしても、一番大事なものはいつも自分の心にあることを感じられると思います。つまり、皆様は幸せになる条件全てを持っているのです。

ありがとうございました。